



臨時会  
12月定例会



じゅう～さんちの も～ぐらうち月 (下豊内子ども会)



役場庁舎建築の

工事請負契約締結を否決！

②

町長の行政報告

③

そこが知りたいQ&A

④  
⑤

平成14年度 各会計決算を認定

⑥

四万十川の清流を守る 浄化方式を研修

⑦

一般質問は6人 ここが聞きたい

⑧  
⑬

傍聴席から一言

⑭

臨時会

役場庁舎建築の

工事請負契約締結を 否決！

11月27日に開会された第3回臨時会で甲佐町役場庁舎及び生涯学習センター工事請負契約締結については、地元業者育成などに意見が集中し、審議未了で流会となりました。このような状況を受けて12月9日に第4回臨時会が、設計内容、金額等についての変更はないが、その後の状況に変化が生じたとの理由で招集されました。

工事請負契約

○ 工事請負契約の締結について

甲佐町役場庁舎及び生涯学習センター新築工事について、去る11月21日に入札を実施した結果、福岡市の(株)大林組九州支店、常務取締役支店長松本國夫氏が14億5,425万円で落札されたので、規程に基づき議会の議決を求めるものです。結果、賛成少数で否決。

反対討論

今回の工事請負の件は、地元業者に配慮がないと考

え反対する。

賛成討論

昭和30年の町村合併以来48年になる。その間新しい庁舎建設は町民の大多数の悲願であり願望であったと信じる。町のシンボルでもある生涯学習センター及び庁舎建設は、町民にとっての夢の実現でもあると確信し賛成する。

第3回臨時会の主な質疑内容

Q 庁舎建築はどういう経過で一般競争入札から指名競争入札に変わったのか。

A 一般競争入札というよ

特別枠の内定があったのが

9月30日で、それから一般競争入札の手順を踏めば

2ヶ月位かかり、完成が遅れ間に合わないとのこと。一般競争入札では無理と判断し、指名競争入札としても一般競争入札に近づきよう大手ゼネコンの上位15社と少し多めの業者を指名した。

Q 備品については、庁舎分だけ別発注して、学習センターは一括発注となつて

いるのはなぜか。

A 備品についてはできる

Q 今、平成17年2月1日の合併を目標に御船町との法定協議会は進められているが、この日程どおり進んだ場合、庁舎は「将来的には、生涯学習センターとして使いたい」との答弁だったと思うが、どのように考えているか。

A 生涯学習センターとして使いたいといった話もあつたが、役場の会議室も2つしかない。合併して空きがでたら庁舎の小会議室として使用したい。

また、空いている場合は、貸し出したい。

Q 前回、あれだけいろんな質問や要望が出たが、何か提案理由は変わったのか。それとも同じか。

A 前回のときは、地元業者をあまり考えていなかったのではないかと聞いた質問が多かった。それで地元業者をできるだけ優先に下

請けで、しかも歩引きを少なくして有利な方法でできるよう落札業者へ出かけ、文書でもって要望してきた。落札業者も文書で「ご要望のとおり町内業者を最優先とさせていただきます。所存です。」といった回答書を持って来られた。また、下

請けといえどもあまり歩引きはしないようにといった要請をしたら、「できるだけ

けそのことにも気を使っていきたい。」とのことであつたので再提案をした。

Q 落札業者から提案して来られたとき、その他に何か違う文書は出されなかつたか。

A 事前に、もっと具体的にどういう費用で、いくらぐらいの下請けをさせてもらえるかといった話をしていたので、とび、土木、鉄筋、外構、型枠などで2割程度何とかなしたいといったのを出して来られた。

Q 工事請負契約については、入札は終わったけど議会承認はできていない。「2割程度何とかしたい」というのは、これだけの仕事をあげるから議会承認をくれ」というのと同じではないか。おかしい。最初から

地元業者との共同企業体という形でいけばそういう労力も要らないし、疑われる事もないのではないかと。

A 商工会や甲佐町の建築業協会から要望書が出ており、要望した。

第4回臨時会の主な質疑内容



築後49年が経過した役場庁舎

### 特別委員会設置

○ 財政問題等調査特別委員会の設置について

町村合併に係る甲佐町・

御船町の財政状況（特別会計、企業会計を含む）について調査を行うことを目的に、委員定数7人で提案を受け、審議された結果、合併に向けての説明のなかで御船町のほうが財政状況が良いという報告を受けてき

たが、特別会計が入っていないなど問題が判明した。将来の甲佐町を左右する重要な問題の根拠となるものであり、財政問題等調査特別委員会の設置が必要とすることから設立された。

委員構成は、以下のとおりです。

- 委員長 中村 幸男 議員
- 副委員長 高木 英吉 議員
- 委員 西坂 親 議員
- 委員 境 国嗣 議員
- 委員 奥名 克美 議員
- 委員 本田 新 議員

### 専決処分

○ 甲佐町一般職の職員の給与に関する条例の一部改正について

給与の官民格差1・07%を是正する国の給与改定に準じた改正で主な内容は、給料表の改正と扶養手当、住居手当及び期末手当の改正並びに4月から11月までの官民格差分を12月の期末手当で減額調整するもので、全員一致で承認された。

委員 山口 照雄 議員

○ 甲佐町一般会計補正予算（第4号）について

内容は、10月に執行された衆議院議員総選挙費820万円。また台風6号による本坂谷地区の道路災害復旧費約641万円を増額補正するものです。

以上を専決処分により予算措置を行ったもので、全員一致で承認された。



改良された坂谷地区の災害復旧現場

### 行政報告

先般の9月定例会において甲佐町社会福祉協議会の運営で間違い事項の指摘があった諸問題については、

### 12月定例会

### 補正予算

○ 一般会計補正予算（第5号）は、約369万円の減額補正で主なものは国民健康保険特別会計の繰出金として約1,598万円の追加

- 1 国民健康保険特別会計の繰出金として約1,598万円の追加
- 2 合併浄化槽設置整備補助金として約139万円の追加
- 3 畜産環境保全施設等整備事業補助金として約70万円の追加
- 4 森林整備地域活動支援交付金として約200万円の追加

- 5 法定外公物譲与申請委託料として約1,500万円の追加
- 6 急傾斜地崩壊対策事業負担金として約710万円の追加
- 7 田口地区農道改良工事の採択減により約610万円の減額
- 8 国の補助採択減により小型動力ポンプ付積載車購入費など約1,580万円の減額
- 他、人件費の減額によるものです。

○ 国民健康保険特別会計（第3号）は約1,947万円の追加補正

○ 老人保険特別会計（第1号）は約5,175万円の追加補正

○ 介護保険特別会計（第1号）は約1,995万円の追加補正

他、有線放送特別会計、水道事業会計でも予算の補正がありました。

# 論 点

## 12月定例会質疑より

# Q & A

# そこが 知りたい!

消防ポンプ購入で  
きず

**Q** 消防施設費の大幅な減額  
がなされているが内容はど  
のようなものか。

**A** 4ヶ所程の小型ポンプ積  
載車を申請したが、国から  
の補助が付かなかったため、  
減額するものです。

消耗品の購入は

**Q** 役場内の消耗品の購入に  
ついては、どのように行わ  
れているか。業者は公平に  
お願いしたい。

**A** 消耗品は大量にある場合  
は、総務の管財係で購入し  
ているが、普通の文具等は  
各課で対応し、購入してい  
る。同じ品物で同じ価格で  
あれば業者への公平性の心  
配りも必要だと思う。

子どもの育成計画

**Q** 次世代行動計画とはどう  
いう内容の計画か。

**A** 次世代育成支援対策推進  
法が平成15年4月に施行さ  
れ、それに基づいて平成16  
年度中に次世代行動育成計  
画を策定しなければならな  
い。今年度はそのニーズ調  
査ということで小学生から  
就学前の子ども、合わせて  
1,150人を対象にアン  
ケートを行いたい。



購入予定であった同型の積載車

堆肥舎の整備に補  
助金

**Q** 畜産業費のなかの事業内  
容について説明を。

**A** 畜産農家等が来年11月か  
ら施行される家畜排泄物法  
に対応するため堆肥舎等を  
新しく整備されるための補  
助金です。4名の方が畜産  
環境リース事業という国の  
事業を申請されており、ま  
た6団体が町単独の補助申  
請をされている。

**Q** 申請方法は、どのよう  
になっているか。

**A** 町単独は、3名以上の団  
体で事業計画書をそえて申  
請してもらい、書類審査後  
予算措置をお願いしている。

**Q** 甲佐小学校の前の歩道は高齢者と身障者にやさしい町づくりの歩道ということで作られているが、歩道が切れているところのガードパイプ部分は、通学途中の小学生が飛び出し、通行中の車にとっては危険である。何らかの対応が必要ではないか。



改良が待たれる歩道

### 歩道の改善を

**A** 用地の関係上、工事がストップしているので担当である県の維持課と協議して何らかの対策をお願いしたい。

### 新幹線工事の廃土は反対

**Q** 九州新幹線の工事に伴う排出土を甲佐町の採石場跡地に、という話があるがどのように考えているのか。

**A** 業者から地元の方に説明会をとの申し出があったが、中止をし、排出土を捨てる場所は、町の水源近くということで反対する意向です。すみたい。

### 投票率向上は

**Q** 本年度はいくつもの選挙があったが、投票時間が前より2時間延長になっている。投票率は向上しているか。

**A** 町からの委託料、補助金等が適正に運営されているか十分チェックし、改善すべき所は改善し、県とも相談しながら努力をしていきたい。

**A** 延長についての投票率は、あまり上がっていないと思う。選管でも議論はしているが実質時間の繰り上げはしていない。

### 社協の適正な運営

**Q** 社会福祉協議会への委託事業については生活管理指導員派遣事業等十分なチェックがなされていない。基金が5,000万円もあり利益が出ているのであれば、補助金の支出はおかしいのではないか。

**A** ニラは高齢者でも生産ができるということで栽培も増え、平均で1億近い生産高があります。まだ見ておりませんが、機械の問題等手を加えたなら良いという事であれば改善すべきようにJAとも打合せし、検討したい。

### ニラ選別機は

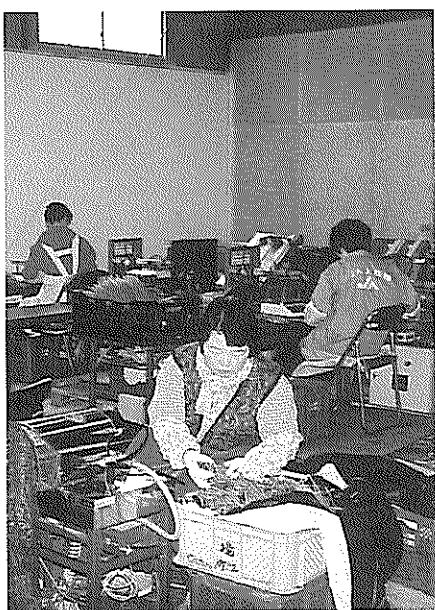
**Q** JA上益城の中に補助金等でニラ選別機が導入されたが、現在のニラ選別機では計量器が付いてなく、自動秤で100グラム単位に量っておられる。十分に機能していないのではないか。

**A** 林業振興費の森林整備地域活動支援交付金とは。

### 森林整備の計画を

**Q** 林業振興費の森林整備地域活動支援交付金とは。

**A** 林業振興費の森林整備地域活動支援交付金とは。林業振興費の作成等で、材木の育成状況や一般道から施業箇所までの作業道や歩道の経路状況の調査また境界の確認などの施業実施区域の明確化、作業道や歩道の補修や整備の計画を森林組合で作成するものである。国が50%、県が25%、町が25%で構成される交付金である。



生産拡大が期待されるニラ選別機

# 平成14年度各会計決算を認定

## 決算審査特別委員会報告

### 11項目の指摘事項を付して

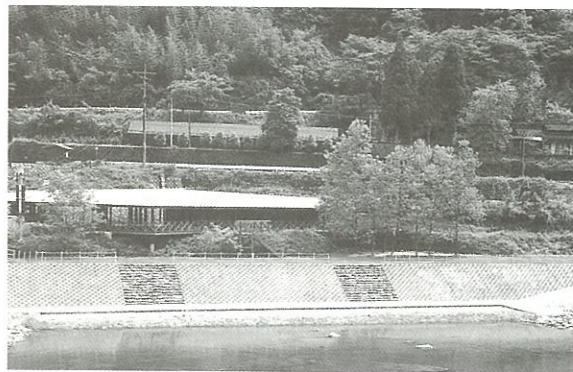


大きな問題となっている少子化現象

9月定例会において審査付託を受けた平成14年度決算審査特別委員会は、11月25日から12月2日にかけて平成14年度一般会計ならびに各特別会計の決算について審査をおこない、「認定すべきもの」と決定し12月定例会に委員長より報告された。しかし個別には、指摘事項も見受けられ、11項目の意見書を付して委員会の報告のとおり認定された。以下意見書の概要についてお知らせします。

### 意見書の概要

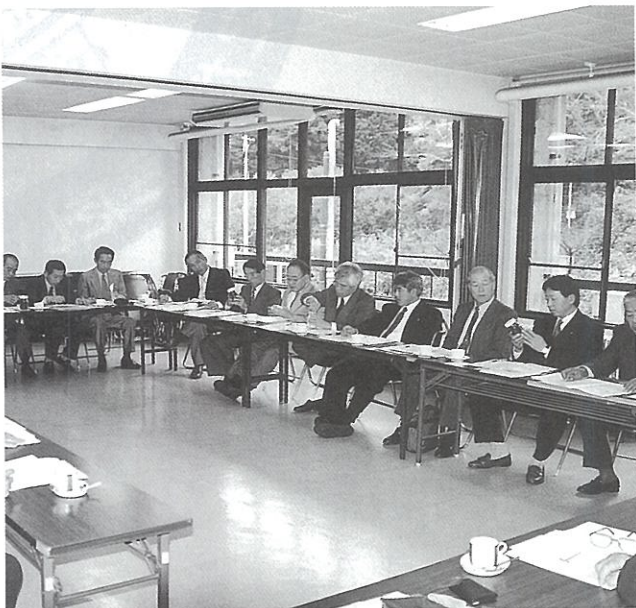
- 1 経常収支比率は対前年比で3・9%上昇し、このことは、財政が、ますます硬化化したことを示すものであり、行政改革の必要性を感じる。町村合併については、現在、事務事業調整項目の擦り合わせがおこなわれているが、町内各地域の格差是正を考慮し、新市建設計画の中でどう反映させていくのか、各課にわたった真剣な取り組みを期待する。
- 2 税や各種使用料については、徴収率は減少している。滞納者の中には長期や額なものなど税や使用料等への納付意欲に欠けると思われるものもあり、税負担の公平性の立場からすればこのまま静観できる事態とは思えない。今後も滞納の長期化を防ぐため、強い態度で臨む必要がある。
- 3 収入役の職務代理者は第1順位を税務課長と定めているが第2順位の規定は設けてない。不測の事態を考慮し第2順位の明文化が必要と思われる。対応を望む。
- 4 「広報こうさ」は、広報手段の一つとして貴重な広報誌である。誌面の充実をはかり愛読率の向上を望む。
- 5 健康福祉課は、現在6係の構成だが、少子・高齢化や介護保険等の実施に伴い、その事務量は相当なものと考えられる。今後の機構改革の中で細分化する必要性を感じる。検討を望む。
- 6 本町の新生児数が年間70名という少子化現象は将来に大きな不安材料をもたらすと思われる。子育て支援策による出生率の上昇策を真剣に考えなければならぬ。放課後児童クラブの実施範囲の拡大や母親が安心して働ける環境作りの面で行政が取り組める場面も多いと考える。検討を望む。
- 7 本町では、井戸江峡キャンプ場など各種施設を運営しているが、施設によっては、利用率が少なく原因の一つとしてPR不足が考えられる。町のホームページを利用した利用申請や広報、更には、企業の研修施設としての利用などを研究してみることや利用度のアップにつながるのではないかと。今後の検討、研究を望む。
- 8 人材育成基金については、低金利で果実運用が難しい今日においては、基金額は総花的に消化されてしまう恐れがあり、本基金の目的に沿った運用でなければならぬと考える。再度、本基金の規定を整理し、対応を望む。
- 9 原材料支給や重機借上の単価は、事業や担当課によってバラツキがみられる。現場条件によって多少の差異は生じるかとも思うが、できうる限り町独自の統一基準の下、単価を設定すべきと考える。対処を望む。
- 10 予算査定において、課を問わず一律カットを原則として予算編成がなされている節が見られるが、その年の重点施策においては当然差異がでてくるものと考え
- 11 町施設の貸付事業については、一部の施設で申請書や管理規定など事務処理に不備が見られる。現状に即した書類の再整備は急務と考える。早急な善処を強く要望する。



利用者の増加が望まれるキャンプ場等 (川平キャンプ場)

# 四万十川の清流を守る 浄化方式を研修

議員研修



ろ材等のサンプルを回し見る

四万十川は、高知県の8市町村を貫流し、鮎、うなぎ、えび、のりなどが取れ、多くの住民の生計を支えている。また「日本における最後の清流」として自然景観の大きな観光資源となっている。

この四万十川の清流を守るため高知県は、「国、県、流域8市町村」と「東京大学」、民間会社1社の官・

学・民3者連携による「四万十川水処理技術研究会」を設置し、開発と水質浄化に努められている。

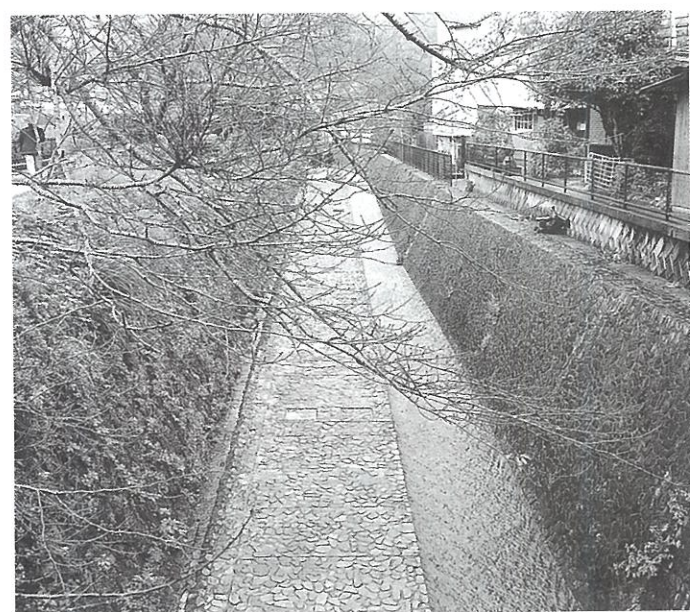
この自然循環型水処理システム「四万十川方式」は、自然界の山、川並びに水田などで行われている自浄作用を応用したもので、薬品を使わずに浄化するため施設は長くなるが後の管理費が安い。また合併浄化槽で



さっそく現場を視察（取水口付近）

も処理が難しい窒素やリンなどの削減ができる。しかし、し尿処理には不適合などから、合併浄化槽と併せた処理施設として、生活雑排水等が川に流れ込む前にこの施設を設置し、排水路や小川の汚濁水を浄化処理して川へ流すのに適しているなどの特徴をもっている。窪川町に国と県の補助で設置されている「四万十川方式生活排水路浄化施設」について研修した。

窪川町は、総面積278km<sup>2</sup>人口14,856人。世帯数6,197戸の一次産業である農業、漁業を中心として栄えた町である。現在、市街地に人口の約30%である5,000人が住んでおり、四万十川方式による浄化施設を設置する前は、四万十川の下流域である中村市に次いで河川を汚す町といわれるように生活雑排水で汚れ、異臭がしていたとのこと。



公園化されている施設の周辺

市街地においては合併浄化槽設置の推進と四万十川方式による浄化施設を3ヶ所に設置し、また、農村部においては農村集落排水施設を1ヶ所設置しているが、今後は合併浄化槽設置の推進を図ることで水質浄化に努めるとしている。

自浄作用を応用した方式のため施設が長くなり、その設置場所に苦慮した琴平川地区では、全国ではじめて施設を河床に設置することで用地問題を解決したこと。また、施設の周辺

を公園的な環境に整え、住民の憩いの場としての活用を促したため、周辺の住民ボランティアが組織され施設等の清掃を行うなど環境に対する住民意識の高まりが見られるようになったことである。

本町においては合併浄化槽の推進を図るとともに生活雑排水が川に流れ込む場所の排水路や小川にこの四万十川方式を組み合わせるなど今後の水質浄化に取りくむための施設の一つとして検討すべき内容であった。



# 一般質問と答弁

北畑常博議員

## 10マイルのTV未放送はなぜ

北畑議員

今回の10マイル公認ロードレース大会は、テレビ放映がなかったが、甲佐町にとってマイナスではなかったのか。

町長

ロードレース大会のテレビ放送は、テレビ局の予算の都合でできなかった。寂しい思いがした。

教育長

一昨年までは、町からも

## 御船町の借金が多い！

どうなる

北畑議員

町村合併に関する当初の説明会では、一人当たりの借金は甲佐町の方が多いとのことだったが、特別会計や下水道事業会計を入れた全体で見れば御船町の方が多い。このことは大事なことなので町民に明らかにすべきではないか。また、どのようにして是正を考えている

放映料を払っていた。昨年は町からの放映料がだせなかったのでテレビ局で他のスポンサーを探し放映されたが、今年是不景気のおおりで難しく、共催である熊日事業部もスポンサー探しに努力されたが見つからず放映できなかった。町が放映料に使っていた金は、

自動着順計測器の導入に使用、運営時間の短縮に努めている。

のか。

町の将来を考え、幹線道路である国道443号線のトンネルの撤去、県道川尻

甲佐線や御船甲佐線の改良、乙女橋から白岩を通って音大に通じる町道の新設など幹線やアクセス道路の整備などに投資してはどうか。

町長

御船町との借金の違いを



乙女小児童の通学風景

## 大井手の水質浄化は

北畑議員

どう埋めるのか。その他のろんな問題が山積みしている。これらを一一つ真剣に議論していきたい。道路については、今すぐにできないにしても常に町の計画の中には、持っている。それが町の生活環境や発展につながるかと考えている。

議会研修で四万十川の水質浄化への取組みを勉強したが、この方法は下水道に

比べ維持経費が安く町も取

り組みやすいと思うがどうか。

町長

現在本町では合併浄化槽を進めている。環境問題は、住民の願いでもあるし、行政の取り組み課題でもある。今後、公共下水道に取り組みむのか、それとも議会のほうで研修された四万十川方式、その報告では非常に経費も安く、環境にもいいと聞いている。この件については、十分に内部検討し、議会の方とも相談しながら対応したい。

## 遠距離通学児童生徒への支援対策は

北畑議員

前にも質問した府領や船津などの遠距離通学児童生徒への支援対策については、どう考えているか。

教育長

前回、前々回に遠距離生徒のバス路線を使った通学はどうかとの質問があったので企画課と協議し、熊本バスの管理課と路線バスの時刻を通学に利用できる時間に変更が可能かどうか協議中である。時刻の変更は迷惑をこうむる人がいないかどうかなどいくつか問題はあがるが、前向きに検討してもらっている。

現在、子どもの連れ去り事件が全国各地でおきており、子どもの通学に保護者も不安を感じられているのではとの思いから、可能となれば4月頃からでも実施したい。



永野義人議員

日和瀬橋左・右岸の交差点計画は

永野議員

平成7年度から国道44

3号線は特殊1種(道路改良)工事が県発注で進められている。その中で日和瀬橋左岸の町道平太郎・日和瀬橋線が、現在施工中の国道443号線と接する直角交差点の一時停止線までの30m程度はフラットで取付の計画があるのか。また、小川島から側道を利用した道路は、国土交通省の管理堤防まで取付計画されているのか。

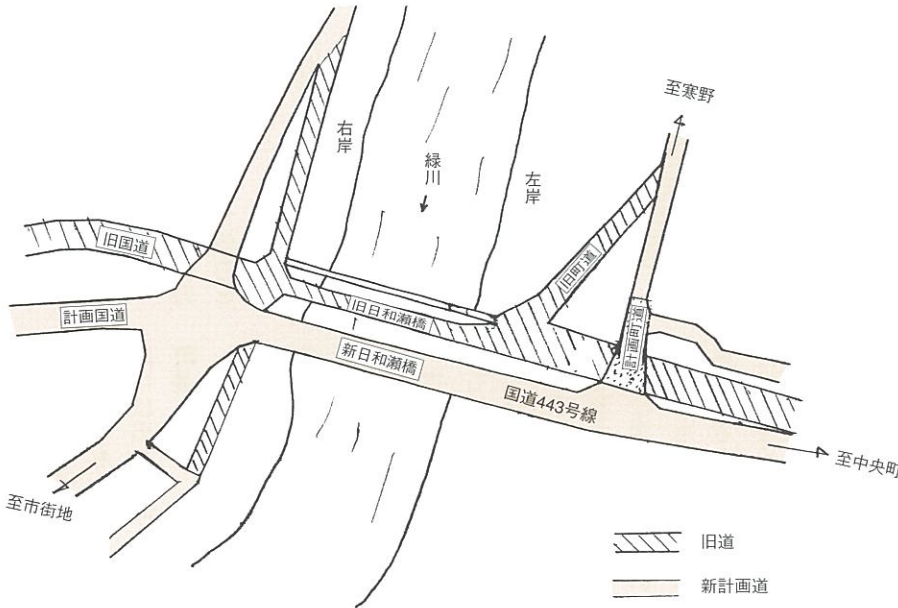
右岸の交差点については、既設道路より3m程高くなるという話だが、緑川堤防を利用した町道上豊内・大町線及び市街地へ通じる道路はどのような計画になっているのか。なお、平成16年度から供用開始までの事業内容を示して欲しい。

建設課長

図面により説明する(下図参照)。また、供用開始

までの事業予定としては、16年の秋頃上部工の発注を、17年の11月ごろにかけて欄干や照明等の整備が計画されている。

永野議員 30mのフラットが取れないということだが、車のスピードが違うため事故が心配されるので、小川島のほうから来る交差点ぐらいまでは考えてほしい。



日和瀬橋付近の完成概要図

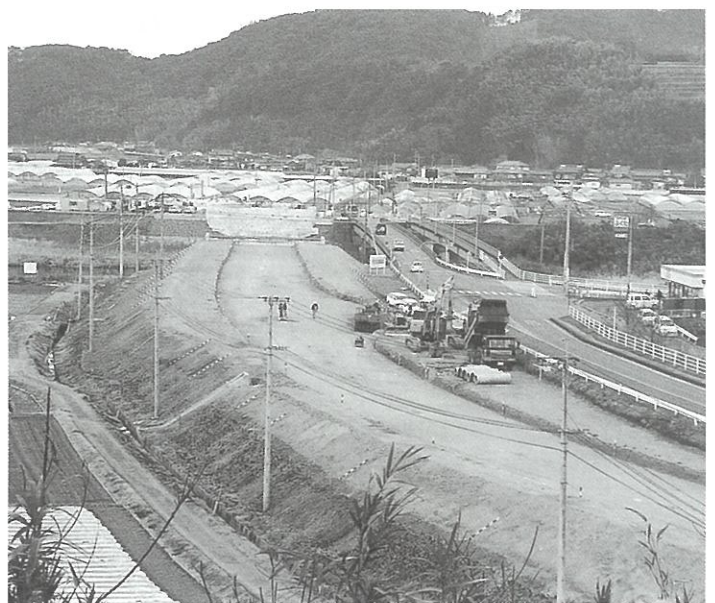
県営寒野・名越谷地区農道整備事業の新規採択年度は

永野議員

この事業は、広域的流通経路の確立による農業の振興とともに、環境・教育・文化・防災などを兼ねた他方面との振興を図ることを目的に砥用町と連携を図り計画中の農道であるが、山林開発の役目を果たす道路でもある。新規採択年度と起点、終点の計画路線はどのようにになっているのか。

耕地課長

寒野名越谷地区の農道整備事業は、起点は砥用町の



改良中の日和瀬橋付近

上中地区で、終点は西寒野の西の溜池の上流で町道日和瀬橋平太郎線につながる道路である。延長3,200mほど。平成14年度に県費の調査費がつき、調査を実施した。その中で費用対効果が低く、採択は難しい状況にあるが、幅員を狭くして効果をあげることで検討したい。費用効果をクリアして大体平成19年頃には採択の見通しで県と協議を進めている。

山口照雄 議員

# 町村合併後どうなる

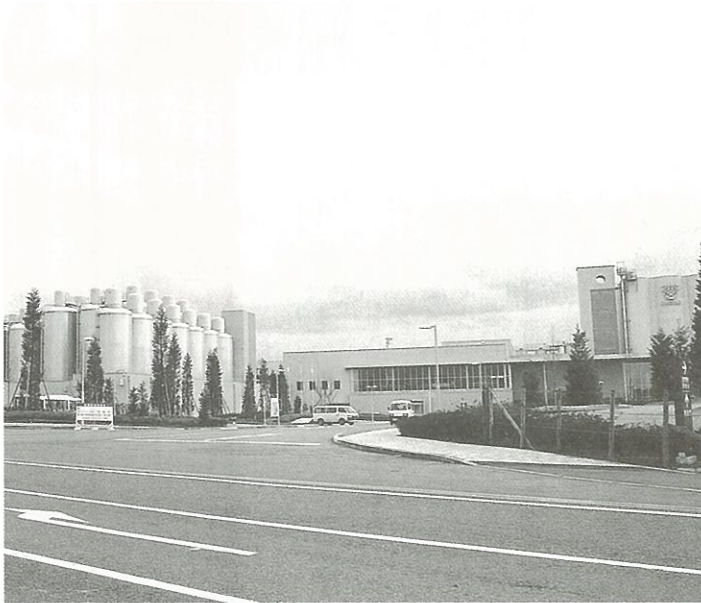
## 甲佐独自の 基本計画の策定を

山口議員

合併したからといって今以上住民サービスが良くなると思えない。なのに何故町村合併か。権限や財政を市町村へ移

譲しようと思うが今の体力では無理、合併して体力をつけなさいというのが国の気持ちだと思ふ。

現在のいろんな面でのサービス水準を維持していいには合併しかないと思うならば、甲佐はどのようなカラーを打ち出すべきか。



嘉島町に誘致されたサントリー工場

そのことが見えない。甲佐の歴史の幕が閉じようとしているのに、今だ基本計画ができていない。遅くとも1、2月までの間には出して欲しい。

町長

甲佐と御船は地形も違う。町長に就任のとき住民の意向もあり、合併実現に向けて取り組む姿勢が変わりはない。

専門部会でいろいろ両町の行政内容について調整をしているが、両町の行政の差があつており、どのように調整するのかは、今後の大きな課題である。いずれにしても法定協の委員の意見があるようにただ進めるだけでなく甲佐独自の豊かな自然環境を生かして、住宅の推進をするのか、企業誘致を図って活性化するか論議を進めながら合併に向けて本町が衰退しないようにしたい。

企画振興課長

新市建設計画については今それぞれの町村から各事業計画を洗い出してもらっている段階で、具体的にはそこまで行ってはいない。

町長  
もう期限も迫っている。いろんな面で論議をしながら最善の努力をし、集中的にやっていききたい。

## 歳入歳出面から見た シミュレーションを

山口議員

前回の合併協議会で合併しない場合のシミュレーションが出されたが、それによれば本町は18年度には基金が底をついて赤字に転落するとなつている。そういう危機的状況を町民は知らされていないし、なぜ訴えないのか。

歳出をどのように抑えるのか。歳入が減るのをどう食い止めるかといった議論もない。

私は議員として説明する義務があるので、執行部は一丸となつて真剣にシミュレーションを考え、作成して欲しい。

町長

現在、しなかつた場合のシミュレーションを作つてはあるが、これはあくまでも現状の体制でいった場合のシミュレーションである。

### 第5回目合併協議会の

中で山口議員からの貴重な意見を受け、合併事務局とも協議し、行政サービスを具体的にどこでどう節減するか、行政改革を含めたシミュレーションを十分考えて、執行部で作成中である。

助役

合併をしたからといって今より何か特別に良くなるというようなものはない。確かに財政的に考えられることは、合併をしないと交付税の締付けがあり、行き詰まってくるのではないかとといった状況が出

ている。

その中で何をなくしていいれば良き住民サービスができるのかとなれば、職員を何名減らすといった人件費の削減や各部落の助成金の見直しあるいは保育園や老人ホーム等の運営を民間委託して細身になるなどそれらをかき取りたいというところから進めて行かなければと思うが、手段としてどういう形を進めるかということまで行ってはいない。



宅地開発が進む府領地域

門内 功 議員

公共工事の入札制度について

門内議員

等性や公平性が保たれる。

現在の入札制度において、指名競争入札と一般競争入札があるが各々のメリット・デメリットについて、それから入札時における談合の有無、受注後の工事の丸投げの実態、手抜き工事

合が容易であるなどがあげられている。入札時の談合の実態については、本町においてはな

や県の補助事業で設けているが、町単独事業は設けていない。町長 国や県も入札する場合業

行政大綱の見直しを

門内議員

去る10月、ハンセン病の元患者に対する人権侵害事件が発生したが、甲佐町では

成16年に町民センターを課から係に縮小する計画があるが、合併後の人口3万人

国旗と町旗の掲揚を

門内議員

町の主催行事並びに関連行事などを実施するときは、郷土愛を培う上からも是非

最低制限価格の設定は国

の道も九九里をもって半ばとすに後退しはしないかと



公共施設で国旗と町旗の推進を

本田 新議員

県道御船・甲佐線はどつとなる

本田議員

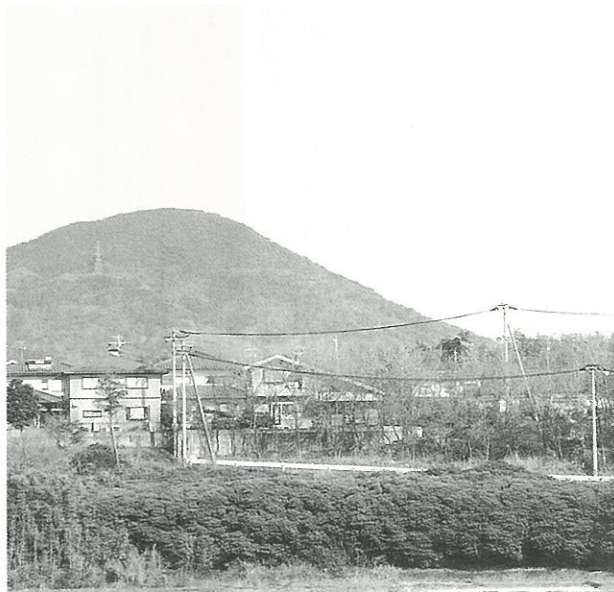
県道御船・甲佐線の現状と今後の対応について町はどのように考えているのか。町長

この路線は、御船とのアクセス道路の重要な路線であるが整備が遅れている。しかも、田口橋の架け替え問題とも関連している道路であるので早く地元の体制を固めなければと思ってい

る。県のほうで計画された路線で、用地が難しいというところで、場合によっては路線の変更も視野に入れながら改良したい。

本田議員

過去において2度設計をしたうえで、用地ができなかったという経緯がある。用地の確保を十分したうえでこの計画にあたって欲しい。



宅地開発が進む御船原

町長

路線をある程度決めたら、その路線の地権者等を含めた内諾を得なければ、県の方へは正式な要望はできないと思う。

合併によって魅力ある市を

本田議員

御船町と甲佐町が合併すれば、熊本市に通勤可能な地域に3万人を有する市ができる。また、自然環境に恵まれた安価な土地があり、宅地開発の可能性が生まれ、人口増が期待される。そして、若い世代から見ると魅力のある地域、自治体となる

ためには、この合併という機会をとらえて行財政改革を行い、その中で福祉、教育の充実を図るべきであると思うがどうか。

町長

甲佐町は文教の町として栄えた町であり、教育の振興はイメージアップになり、人口増にもつながると思う。合併については、いろんな問題があるが、早めに議論して対応すべきと思う。

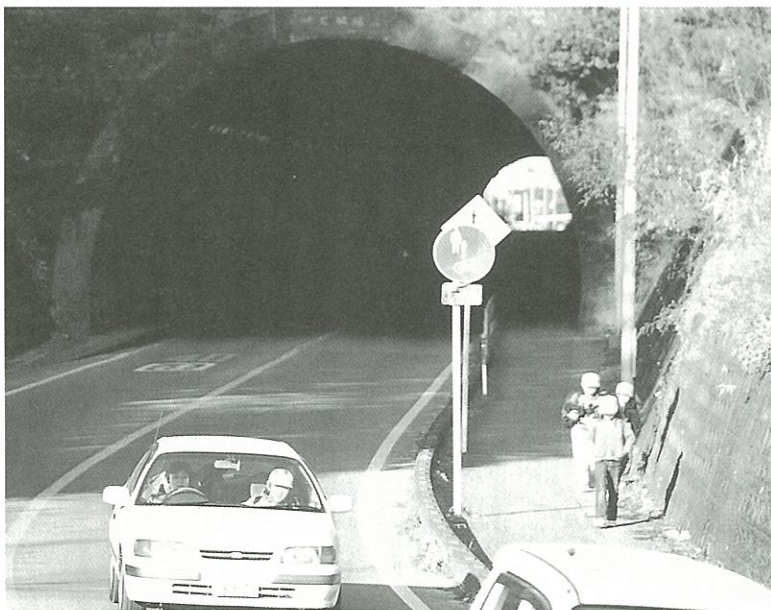
市街地の将来は

本田議員

合併は、全町的な視野にたって考えるべきものである。しかしながら市街地の活性化を考えると、合併によって人は御船のほうに流れることが予想されたり、甲佐町有史以来の市街地が衰退していくのではといった意見もある。今後を思うとき庁舎建設も町の拠点を考えた上であると思うがどうか。

町長

合併して衰退しないためには、例えば合併したら健康診断など甲佐で実施すれば御船の人も来られる機会が増えるなど生涯学習センターや保健福祉センターなどをフルに活用してこちらに呼び寄せるような環境づくりをすることが必要だと思ふ。



通学区の自由化を

通学区の自由化を

本田議員

子どもを持つ親にとって家を建てるときなどは子どもも通学区は重要な問題である。通学区の指定が土地の開発の妨げにならない環境づくりも行政の課題ではないか。

教育長

通学区の問題は大変難しい問題である。通学区は、

クラス編成をはじめ多くの国や県からの補助に影響があり、国等からの監査も大変やかましい。合併した場合どのような形にするのかということは、県の教育委員会や文部科学省あたりと協議しながら決めていきたい。

# 西坂親議員

## 早急に建設計画を

### 西坂議員

本町議会は、御船町との合併を前提に法定協議会設立を承認議決し、両町間で協議検討が重ねられているが、今日までのところ事務的調整のみが先行し、合併後の将来像を描いた建設計画（ビジョン）が策定できておらず、大変疑問である。

### 町長

両町の建設計画をつくるにあたっては、本町の建設計画を独自で内部検討し、両町の合併建設計画で対応すべきと思う。



幅員が狭いために交通量が増え、通行に支障をきたしている田口橋

### 西坂議員

合併に向けて、諸般の事情により、万一合併できない事態が生じた場合の計画は検討したことがあるか。

### 町長

一応合併を目指した法定

## 緑川の水質改善特区の認定の申請を

### 西坂議員

構造改革特別法が、施行され本県では宇城地区が福祉特区、富合町が教育特区、阿蘇町が農業特区など既に認定されているが、本町は申請の予定があるか。

提案であるが、環境保全の一環として「緑川流域水質保全特区」の認定申請を検討されてはどうか。

その為には、緑川の水質汚染の最大の原因である生活排水の処理対策について町長の考えはいかがか。

### 町長

構造改革特別法の目的が、経済の活性化のため民間活力を最大限に引き出し、地域経済の活性化を図るためである。環境整備は行政にとって大事な業務であり、特に市街地周辺の下水、排

協議会であるため、合併をしなかった場合の行政改革での経費節減、行政サービスのどこに節減を求めているのかのシミュレーションはまだできていない。今後検討したい。

協賛会であるため、合併を

三、県道今吉野甲佐線改良

工事

四、町道船津堅志田線（通

称馬門線）の改良工事

五、山口（船津）集落内の

雨季洪水時の床下浸水改

善対策道路工事

など諸事業に対する対応と

完成見通しについて関係課

長から説明を求める。

耕地課長

広域農道は、早川から小

峰間約1,320mを平成

16年度に採択するため地権

者や周辺の関係者等に説明

会を行っている。

教育長

麻生原、大沢水線は世持

地内で文化財の発掘調査が

必要となり、専門調査員を

雇用し、早く調査が終わる

よう努力する。

建設課長

田口橋の架け替えは、県

行政に対し、陳情や要望を

文書や口頭で行っている。

なお、御船小川線の道路整

備改修期成会の町長、議長、

県議を含め振興局も同席し

要望しているところである。

船津、庁平線の改良につい

ては、中央町では測量調査

### 町長

前向きに検討し、道路の構造等も中央町と打合せながら進めていきたい。

三、県道今吉野甲佐線改良

工事

四、町道船津堅志田線（通

称馬門線）の改良工事

五、山口（船津）集落内の

雨季洪水時の床下浸水改

善対策道路工事

など諸事業に対する対応と

完成見通しについて関係課

長から説明を求める。

耕地課長

広域農道は、早川から小

峰間約1,320mを平成

16年度に採択するため地権

者や周辺の関係者等に説明

会を行っている。

教育長

麻生原、大沢水線は世持

地内で文化財の発掘調査が

必要となり、専門調査員を

雇用し、早く調査が終わる

よう努力する。

建設課長

田口橋の架け替えは、県

行政に対し、陳情や要望を

文書や口頭で行っている。

なお、御船小川線の道路整

備改修期成会の町長、議長、

県議を含め振興局も同席し

要望しているところである。

船津、庁平線の改良につい

ては、中央町では測量調査

傍聴席から一言

日本の将来はどうなる



横田 田上一夫

私は家族で車の修理・販売等を営んでいます。最近では「〇〇さん元気でですか。頑張っていますか？」と声かけられても「ハイ頑張っています。」となかなか笑顔で返事ができないような状況にはありません。10年前バブルが弾けていらい、こんなにまで不況が我が身に降りかかって来るとは思いませんでした。

しかし、最近の新聞によれば上場企業の80%が景気は少しずつ上向きに転じてきたと述べています。やつと一筋の光が差し込んできたように思えます。だから今までも増して頑張っているかと思っています。また、最近の日本状況を見ますとイラクへの自衛隊の派遣問題、北朝鮮の拉致問題の解決、BSEや鳥イ

大変な時期であり、国民は将来像が見えず、とても不安がっているといます。トップの人が国民の納得する長期ビジョンを打ち上げ、議会と協力し、10年後の日本、20年後、30年後はこんなに素晴らしい、世界一の国になります、平和で楽しい生活ができます、との将来像を示して欲しいのです。そのような夢があれば、子どもや孫達の将来のためにも、今は苦しいけど前向きで頑張れると思えます。

このことは、そのままわが町にも置き換えができるのではないかと思います。行政と議会が協力して甲佐町発展に頑張ってくださいと思います。期待します。

研修報告

議会運営委員会では、平成15年10月、佐賀県三養基郡の「上峰町議会」の議会運営他について研修を行いました。

上峰町は人口約8千6百人、議員定数12人、議会運営委員会の委員数は5人となっています。また、常任委員会は3委員会が設置さ



上峰町議会での研修風景

れ、本会議中心主義で行われていました。特に一般質問については制限時間がなく、議長を除いた議員全員が一般質問の通告書を提出され、質問されていました。当初予算及び決算の審議については、特別委員会を設置し、付託審議。また、議会最後の日に議案についての討論がなされ、採決するなど特徴ある運営が行われていました。

議会広報についても平成11年4月で109号が発行されており、本町より早くから発行が行われていました。

今後研修しましたことを参考に委員会で協議し、一般質問は町長との政策論争の場との思いを再度確認しながら、議会の活性化に努めて行きたいと思っています。

人事関係

甲佐町固定資産評価審査委員会委員の選任

前委員の任期満了により、新たに甲斐武昭氏を選任することに同意しました。任期は、平成15年12月26日から平成18年12月25日までの3年間です。

住所

大字仁田子168番地29  
生年月日  
昭和15年2月11日



編集後記

現在、お隣の御船町との合併問題が粛々と進められています。執行部、議会はもちろん住民にとっても大きな課題です。

甲佐町では嘱託員と議会議員による合併検討委員会を設け、法定協議会からの提案事項の検討を行っていますが、議会でも財政問題等調査特別委員会を設けて合併した場合やなかった場合の甲佐町について、真剣に論議がかわされています。その内容をつぶさに町民にお伝えするには、定例会ごとこの紙面では不十分の思いもあり、近々増刊号の発行をも検討しているところです。

あとになりましたが、今年も議会広報委員一同、紙面づくりに一生懸命努力したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

